



1・イントロダクション

—文化人類学と看護の関わり—

2025.5.13-2限

2025年度島原市医師会看護学校-文化人類学

1



看護と文化人類学

- 看護師の国家資格を取得する際に、文化人類学の知識は基本的に必要ない
- では、なぜカリキュラムのなかに文化人類学が入っているのか？
 - 「基礎分野」科目のひとつとして組み込まれている（ここに限らず、全国の看護系専門学校や大学の看護系学部・学科で）
 - 専門職に就くならこのくらいは常識として知っておこうよ、という「一般教養」という意味合いが強い
 - 特に、看護師という「人間相手の職業」にとって、「人間理解の助けとなる知識」として、文化人類学はそれなりに貢献してくれる

2025/5/13-2限 1・イントロダクション 2

2



文化人類学の基本事項 (1)

1. 文化人類学とは、**文化とひとの関わり**についての学問である
2. 文化とは、ある一定のひとびとの集団における**ルールや決まり、考え方**のようなものをさす
3. 文化を担うひとびとの集団はさまざまである
 - 家族（家ごとの決まりの違いとか）
 - 学校（遊びのルールの違いとか）
 - 地域（方言の違いとか）
 - 職業、性別、年齢……（「看護師」という文化とか、男女差とか、世代の違いとか）
 - 国、民族……（海外旅行に行っても感じるさまざまなこと、あるいは、街で出会う「外国人」のひとたちと自分たちとの違い）

2025/5/13-2限 1・イントロダクション 3

3



文化人類学の基本事項 (2)

4. 世の中にはいろいろな文化が並存している = どこにでも**異文化**がある
 - 別に海外に出かけなくても、どこにでも異文化に接することができる
5. 異文化は、簡単には受け入れがたいこともある
 - 食文化などに感じるカルチャーショック
 - 生・死の概念、病気と健康に関する概念の違いもある？
6. 異文化理解には、**コミュニケーション**が必須である
 - なぜそういうルール・やりかたなのかは、ちゃんと聞いてみないとわからない
 - 自分自身の持っているルール・やりかたも、自分でわかっていないと説明できないし、相手のこともわからない

2025/5/13-2限 1・イントロダクション 4

4



看護と関係あるの？

- 看護にとって、**コミュニケーション**が大事であるならば、「**異文化理解とコミュニケーション**」をテーマとする文化人類学と看護はどこかでつながっている
- コミュニケーションは、時には、とても難しい
 - 相手のことをわかっているつもりで、誤解していたりする
 - ことばがうまく通じないこともある（外国人だったり、方言のお年寄りだったり）
- 患者さんの「**全人的な理解**」をするには、そのひとの考え方やルール、つまり**そのひとの持つ文化への注目**が必要となってくる
- 「**避難訓練**」としての文化人類学

2025/5/13-2限 1・イントロダクション 5

5



方言とコミュニケーション

- 方言で「わからないな」と思ったら、(a) わからないままにしておくのか、(b) 本人に「わからない」と伝えて確認するのか？
 - 田舎のばあちゃんからの電話がわからない→お母さんに代わったら、いきなりお母さん謎の方言話し出したよ……
 - クラスの友達の言ってる単語、意味わからないし、変……
 - ローカルニュースをみていたら、インタビューされてるお年寄りのことばがちょっと何言ってるのかわからない……
 - 沖縄に旅行に行ってみました。タクシーの運転手の人の言っていることが……
 - 離島の病院に就職しました。患者さんの言っていることがいまいちよくわからない……

2025/5/13-2限 1・イントロダクション 6

6

医療現場と方言(1)

- 「今日はこわい」 (北海道など)
 - 今日は疲れた
- 「今日はせついい」 (広島)
 - (肉体的に衰弱して) 元気が出ず苦しい
- 「今日はえらい」 (愛知)
 - からだがだるい
- 「今日はせつなか」 (長崎)
 - 今日は体が痛む

2025/5/13-2限
1・イントロダクション
7

7

高熱や体の痛みなどで動くのが大変な状態を 表わす方言形容詞？

【全国】体調が悪いとき、 地元の言葉で何と言う？

方言形容詞	割合
えらい	37.8%
しんどい	25.7%
だるい	11.9%
こわい	8.2%
きつい	6.7%
つらい	2.9%
せこい	0.9%
たいそい	0.4%
せつない	0.4%
その他	0.4%

(Jタウンネット調べ)

【都道府県別】体調が悪いとき、 地元の言葉で何と言う？

~50% 51~75% 76%~

(Jタウンネット調べ)

2025/5/13-2限
1・イントロダクション
8

8



医療現場と方言(2)

- 「右腕のところがおぼったい」（静岡）
 - 重苦しいような、鈍い痛みがあるような、炎症で腫れている感じ
- 「親指がいぼる」（広島）
 - とげなどが刺さったことによるじんじんするような痛みがある
- 「目がはしる」（広島）
 - 薬品か何かが目に入ってしみるような痛みがある
- 「目がいつい」（北海道）
 - まぶたがごろごろするような異物感がある
- 「鼻ぎんかになった」（新潟）
 - 鼻が詰まっている

2025/5/13-2限 1・イントロダクション 9

9



医療現場と方言(3)

- 「腹がもぎれる」（新潟）
 - お腹が下っている
- 「腹がニゴニゴする」（岐阜）
 - お腹が下っている
- 「うー、腹んせく」（長崎）
 - うー、お腹がいたい
- 「胃がきやきやする」（静岡）
 - 少なくとも気分が余り良くない時の胃の調子の事で、やや胸焼けと痛みを感じずる状態。
- 「腹がキリキリにがる」（広島）
 - 食中毒か何かで、しびれるような痛みがある

2025/5/13-2限 1・イントロダクション 10

10



医療現場と方言(4)

- 「あたまわるいの？」（山口）
 - 頭が痛いのか？
- 「けんびきが痛い」（香川～愛媛）
 - 肩胛骨のあたりが凝って痛い
- 「(Ns)胸は痛くないですか？」 「(Pt)……なんか、やめらいねえ」（群馬）
 - 「胸は痛くないですか」 「……なんだか不快感があるね」

2025/5/13-2限 1・イントロダクション 11

11



資料・医療者のための方言の手引き

- 医療現場における方言の問題については、一部の専門家を除いてこれまであまり注目されてこなかった
 - 同じ地域内で（たとえば島原なら島原で）、同じ方言を話す患者と医療従事者がコミュニケーションを取ろうとする場合には、さほど問題と思われてこなかった
 - 1995年の阪神大震災以降、被災地支援というかたちで、異なる地域同士の患者と医療従事者が関わる際に、方言によるディスコミュニケーション（コミュニケーション不全）の問題が注目されるようになった
 - 「異文化」「理解」ということばを使って言い換えれば、「異文化間のコミュニケーションをスムーズにするために、方言に対する理解が必要であることがわかってきた」ということになる

2025/5/13-2限 1・イントロダクション 12

12